

## 平成29年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成29年7月5日（水）午後6時～
- 会場 音別町コミュニティセンター
- 参加者 23人

### 【市長より説明（別途資料参照）】

#### ○将来を見通したまちづくり

- ・ 釧路市の台所事情
- ・ 釧路市の人口推移
- ・ 雇用を生み出す産業の強化
- ・ 子どもを生み育てたいという希望をかなえる
- ・ 「世界一級の観光地」を目指して
- ・ 阿寒湖アイヌ施策の推進
- ・ 安心な暮らしをつくる
- ・ 人口減少に対応した地域をつくる
- ・ 釧路市まちづくり基本構想等の策定について

### ●意見交換

#### 【市長】

昨年、ご意見をいただいた「高齢者バス利用助成券」の件について、お伝えいたします。現在、「高齢者バス利用助成券」の利用は3月末で終了し、6月から始まることから2カ月間使用できない状況であります。今、来年の第7期計画の作成について進めており、その中の議論として入っている形でありますので、今年12月ぐらいまでには、どのような形にできるかを、ご報告できると考えております。

#### 【参加者A】

ありがとうございます。

#### 【参加者B】

本日の資料を見まして、将来に向けた基本的なたたき台として、先を見据えた資料だと思います。その中で、市民税と地方交付税の関係について、先程、市長からお話がありましたが、市民税を重要とする中で、釧路市は帯広市よりも低いということは、その市民税を上げるための施策的なことについて、将来、景気も含めて出てくることだと思っておりますが、どのようなことがありますか。

#### 【市長】

所得を上げることを頑張らなければいけないと思います。実は、水産でも農業でも、どのようなものでも、所得があれば頑張ることができる話だと思っております。そのようなところが、産業や仕事の魅力につながりますので、その

ような意味で、所得を上げるということがあると思います。

所得を上げるためには、当然、産業が活性化しなければいけないということになりますので、産業施策は、本当に重要な形になってくると考えております。

実際、建設業や介護分野等の人手不足がありますけれど、報道等にも出てるように所得の問題があります。そのような問題の中で、将来を見通して仕事を続けていけるのだろうかということがあります。農業、水産、どのようなものでも、しっかり稼げる形が出てきた時には、状況が変わると思っております。多くの所では、今、特に、非正規職員が多い状況の中で、ニュース等々を見てわかるとおり、将来の見通しがつけられない状況になっております。そのような中で、この地域で、いろいろと大変なものがありますが、しっかり所得が稼げるということになれば、過疎化から抜けられ、このようなことが一番の早道と思っております。

例えば、根室管内別海町の野付漁業協同組合では、ホタテの生産を上げており、所得が高いです。そのような中で、お嫁さんも来ているということもあります。あとは、今年のニュースで、猿払村が、地域別の所得として、日本で二位でした。一位が、東京都港区で、二位が猿払村で、次がどこの何々区といった部分で、そのようなところは、権利や漁業権等があるので、簡単にはいかないのですが、地域の中でいろいろなことを実施して、所得を確保することができることになれば、魅力につながります。これらから、私たちは、一つ一つの産業の所得が上がっていくような施策を一緒になって進めていくということです。

我々は、商売をしたことがないため、商売をしている方々といろいろと情報を出しながら、一緒になって進めていくことが、何よりも重要なことになっていくと考えております。

### 【参加者B】

所得の話につきましては、私も本当にそのように思います。所得を上げることは、基本的に大事なことです。特に十勝は、釧路の人間よりも非常に働く体質を持っているのではないかと思います。やはり働かなければ所得は、上がってこないと思います。それは、観光も含めてです。これは、基本的に市として大事なことと思っております。

特に、戦後、音別町は、おそらく管内的にも音別町を追い越せ、追い抜けると言われるような町でありました。しかし、今、本当に一番心配していることは、釧路市として、せっかく合併したのですが、釧路市の中で、音別町は危機的な状況にあるのではないかと思っております。それは、雇用を含めて、これから音別町の学校が1校も残らなくなるような心配をしています。私の孫も、学校に行っている子どもはいません。最近、話を聞く範囲内では、学校に上がる人が少なく、先がもう見えてきているような状況ではないかという感じが見受けられますので、そのようになると、この地域として大変だと思います。

先程説明のありました資料の中にも、18歳から24歳の年齢の若者が地元に残っていないということです。私は、ここが一番問題であって、この若い

方々が、この地域に残れるような施策というものが何かと、いつも思っております。特に、若い方々で、高校、大学を卒業する人の年齢というものは、非常に所得が低く、生活の状況が厳しいです。そのような中で、このような地方では、仕事をしたくてもありません。結局、音別町では、他から来るといっても、ここで生活、滞在するということが難しいです。

マンションにしても、借家にしても、若い方々が住むことができない状況にあるのではないかと思います。所得の低い人々が生活できるような借家について、何か対応できる方法がないかと思えます。

### 【市長】

おっしゃるとおり、これから色々なことをトータル的に考えていかななくてはいけない状況になっていると思えます。

日本の仕組みが、まさに地方から中央に人材を輩出しながら進めてきました。しかし、これがある意味、みんなが同じ方向を見て、同じような感覚の中で進めていくものであり、地元に残るのは家業がある方が多かったものです。これから地方創生となってきた時には、その地方で、いろいろな可能性を高めていくことや、地域の強いものを伸ばしていく形になると思っております。

一昨年、京都の立命館大学で、四季に出している冊子内に農業が特集されておりましたが、立命館大学には農学部はありません。その立命館大学の出身者で、全国で農業に従事している方々の特集が組まれておりました。北海道には、一カ所オホーツクであったと思えますが、文学部を卒業された方が農業を行っていることや、工学部を卒業した方が農業を行っているなど、この方々が地域と地方都市の中で働いているということ、学生向けに配布するパンフレット内に掲載していたということは、京都の大学ですので驚きました。

さまざまなことが多様化していることもありますし、都会に行って、若しくはどの地域でもいいのですが、自分の思いどおりの職業に就ける人は、それほどいない訳で、そこがポイントになってくると思っております。実際に、日本全国で卒業されて就職し、3年以内に離職する確率は45%弱ぐらいが日本の平均で、北海道がそれより5%高く50%ということが、大きな課題になっております。それだけ定着率が悪いということです。その点も、逆に地方都市にしてみたら、ある意味プラスに使えるのではないかと思っております。

地方都市でいいますと、高校を卒業し、札幌や都会に憧れ、行ってみたいと思うことは、どのような人にでもあると思えます。しかし、実際に行った時に、現実と理想の姿にかなりのギャップを感じるものです。その時に、戻って来られないこともあるかもしれませんが、この地域で、このようなことができるということが、もう一つ頭の中に情報として入っていることが重要です。

故郷で働くマインド等、他の地域の方々でも、そのような気持ちになってくれる可能性というものは、私は絶対にあると考えております。そのためにも、地元の中でどのような形で所得を稼ぐことができるかを考え、併せて環境を表に出していき、そしてそれらに必要なさまざまなインフラ整備もあります。

住む場所については、今までそのような想定をしていないからです。

実は、阿寒湖畔も一緒です。人を連れてきても、住む場所がありません。

音別も今回、協力いただいて、大塚さんという形で、確保していただいていたことは伺っているのですが、本当に考えていかなければいけない状況であると思っております。そこで進めていくためには、どのような形をとっていかうかということ全体を考えていかなければいけないと思っておりますが、この地域の産業や、今まで培ってきたものを表により一層出していきながらと考えています。

その中で、誰か、何人かが成功していけば、これがまたニュースになるもので、このような形の中で、取り組んでいければいいと思っております。

みんなの意識が多様化しているということは、逆に地方にとってはチャンスであると思っております。この地域に住んでいる我々が、一緒になって盛り上げて情報を発信し、進めていけたらと考えています。

すぐにできるかといえば、まだ時間はかかりますが、一緒になって進めていければと考えています。

### 【参加者B】

今日の懇談会の資料の中には、音別は、農林業ということなのですが、農林業についても、農林業について、将来どうなるのかということが、まちづくりの中で一番大事なことです。一次産業の特に農林業です。

そのことについて、将来どのように地域として、釧路市として考えていくのか、音別地域の一次産業に関わる将来的な施策的なものがあるのでしょうか。日頃、振興公社に対して協力していただいていることについて、感謝とお礼を申し上げたいと思っておりますが、我々も音別の酪農が大変な状況であり、相対的には良いとは言われますけれども、最近、離農を含めて、本当に深刻な状況にあります。

そのような中で、特に振興公社というものは、地域の我々、酪農家の下支えをしている一番大事な部分です。雇用も含めて、将来の音別の担う大事な部分なので、よろしく願いいたします。

### 【産業振興部長】

私どもも、この音別の農業は、先駆的な取り組みをしてきており、かなり高い質で、生産を継続してきているという認識でありますから、今後とも引き続き、農業、また林業を中心に、産業をしっかりと支えるということは大事だと思います。特に、個別の農家さんの支出が、他の地域よりも格段に高いところからスタートしておりますので、個別の農家さんをどのように維持していくかという意味では、担い手をしっかりと確保していくことが、ビジョンとして必要だと思っております。ここは今、いろいろな若い方々が、いろいろと工夫して、大学とも連携しながら取り組んでいることもありますので、しっかりと対応したいと思っております。

また、一方で、基盤というものは何としても整備を続けなければなりませんので、道営草地整備事業で、個別の農家さんの整備もさせていただいておりま

すけれども、有利な事業を入れながら、しっかり整備したいと考えております。個別の農家さんを支えるためには、振興公社さんのような公社で支える地域の営農支援システムというものをしっかりと持たないと、なかなか個別の農家さんだけに頑張れといっても、やはり限界があると思っております。

そして、振興公社の持っている機能は、極めて大事であると思っております。しかしながら、振興公社さんの施設を見ていると、かなり厳しい施設の状況になっています。昭和50年代に建てたような牛舎、または、色々なコンクリートがかなり欠けているような現状、パドックも私どもの最先端のものから比べると、かなり劣化の進んだ古いものであろうかと思っております。

そのような意味では、個別の農家さんに、力をつけていただきつつ、地域として支える営農支援システムとしての公社の機能が重要であります。これを改善したり、機能を向上させたりしなければいけないと思っておりますので、いろいろな事業を検討しながら、将来も、音別は農業で食っていくのだと、ここで稼ぐのだと、先程、市長が所得を上げていくことこそが、大事だといっており、所得こそが次の雇用にもつながると思っておりますので、我々としても、この機能をしっかりと維持、また拡充していくような施策を、いろいろな知恵を使って行いたいと思っております。このようなことがあるぞ、このような知恵を使ってやったらいいのではないかということも、いろいろ教えていただき、一緒に進めていきたいと思っております。

私ども、しっかりと農業を支えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

### 【参加者C】

先程、カジノ問題のお話をしておりました。市長からのお話では、バラ色の話ばかりだと思ったのですが、本当にそれでいいのかという心配があります。

私は、学生時代、パチンコにのめり込みまして、依存症一步手前になりました。勝てばうれしいし、負ければ今度こそというようになるのです。他に麻雀もやりましたし、そういう勝負事が私大好きなものでしたから、負の心配をする訳です。このような心配はないのか、それに対する対応をどうするのかについて、お聞きしたいです。

### 【市長】

まさしく、ギャンブル依存症の課題は出されているものです。実際、議会でも、ギャンブル依存症の高い日本において、そのようなものは問題があるというご意見をいただきました。私は、この中で、ギャンブル依存症が日本人に高いということについては、おかしいと思っております。同じ人間でありながら、日本人だけが、ギャンブル依存症が高いという論調は、おかしいと思っております。ギャンブル依存症が高いということは、今の仕組みがおかしいからだと考えるべきだと思っております。

世界の中には、日本の仕組みはありません。逆にカジノというものは、世界の仕組みの中で出ており、先程いったようにさまざまな制限として、ドレスコ

ードであるとか、そのような形のものがある訳ですから、それらを導入していった方が、逆に依存症対策が進むのではないかと、議会の中ではそのようにお伝えし、そういう見方も一つあるということもご理解いただきたいと思います。

その上で、ギャンブル依存症というものは、現実にあるということ認識している訳でありまして、ここはしっかりとした対策を取るということは、必要になってまいります。もちろん、ここは第一に国の方でルールを作ることになっております。私どもも、当然、どのようなことを行って、対応をしていくのかということでもあります。実際、海外でも対策をとりながら進めているものであります。どのような形の中で進めていくといった実例はありますので、そのようなことをしっかり行っていきながら、きらびやかなものではなく、自然の中にマッチングした I R というものを目指していきたいと考えています。

収益という観点からいうと、地方で導入するものは、間違いなく低くなり、大都会で導入した方が、間違いなく収益は高いと思います。

そのような中で、私は、北海道、日本で初めて I R を導入する時に、ただ単に、目の前の収益至上主義で、都会に作って儲けましようというようなことを、我が国が進めていいのでしょうかという話もさせていただいております。本来は、持続可能な仕組みを初めて導入し、このように地域の方々とのマッチングをしながら、収益も一定程度あげ、さまざまな対策をし、結果的に良くなったというものを日本に導入することが、一番必要なことではないかと思っております。そのためには、自然豊かな、そして、さまざまな規制のある国立公園内の阿寒の中で、そのようなものを生かすということが、まさに、モデルになってくるのではないかという言い方をさせていただいているもので、決してそのようなバラ色な形といったものではないです。

ただ、世の中にある風潮としては、どうしても収益重視ということが非常に多いと考えているところで、やはりなかなか厳しいものがあるかもしれません。

しかしながら、私どもは、そのような考え方の中で、これらを阿寒湖に導入することによって、ひがし北海道全体にプラスになると思っています。

空港も、女満別空港、釧路空港、十勝帯広空港といったところの中心にあるのが、実は阿寒湖です。少し離れると、紋別空港や中標津空港もあります。

そこに拠点があると、周り全体にとってプラスになってきますし、例えば、利用者の方々が、他のまちから標茶へ行って、サフォークを食べて美味しかったという話が出てきてもいいですし、いろいろなまちが出てきてもいいですし、そのような意味では、先程言ったように、いろいろなきっかけがあって、多くの人に来ていただいて、1泊だったものが、2泊、3泊につながってくることによって、最終的に大きなプラスになってくるのではないかと考えております。

そのようなきっかけ、また機能を持つというものは、非常に大きなことになるとのではないかという意味で、私どもとしては、この阿寒湖の I R の導入というものを考えているものであります。

#### 【参加者 C】

市長のお話はわかりましたが、基本的には私は反対です。先日、1カ月ぐら

い前に、イベントがあり、市長もいらしておりましたイランカラプテの音楽祭といった、あのような素晴らしいアイヌの文化もある阿寒湖に、I R、カジノはそぐわないと思っております。

### 【市長】

今回、しっかりとしたイメージ図というものが示すことができれば良かったのですが、そこに至ってないというところが現実の姿です。

国においても、法律がどのようになるか、まだ、枠組が決まっていないうちで、どうしてもイメージが博打場のような感覚になっており、それは良くないということは私も思いますし、そのようなことから、不安だ、反対だといった声は出てくるかと思っております。これらから、私どもは、そのようなことに対して、しっかりと説明をしていきたいと思っております。

私は、良いもの、売りである自然、文化といったものを壊すようなことは、絶対に進めるべきではないと考えており、そこをしっかりと守っているから、まさに今日の評価や人気があるものと思っております。

実際に、自分も市長になってみて、歴代の市長や町長、いろいろな方々が取り組んできたことの中で、私が今、最も感謝していることは2つあります。

1つ目は、ラムサール条約に第1号として登録した釧路湿原であります。これは、日本で1番最初に湿原を登録したのが釧路であります。あの時の、新聞の論調では、湿原というものは迷惑なものでした。湿原を開発して、水捌けを良くして使えるようにすることが、その当時の流れでしたが、その中で、釧路湿原をラムサール条約に登録し、湿原を守っていくという形をとりました。新聞等々の論調では、そのようなものは何になるのだということで、その当時、書かれたものであります。

しかしながら、今、この釧路が、そのような意味で、特に第1号として取り組んでいたということは、今の評価に繋がっておりますし、また、釧路湿原国立公園は、30年前の7月31日に国立公園になり、今で、国立公園の30周年になりますけれど、それまで200万人だった観光客が、400万人に倍増したところにもつながってるところです。

もう一つ、私が感謝しているのは、釧路公立大学の存在です。

これも、30年前になる訳であります。釧路公立大学は、一部事務組合方式で設立したものです。その当時、教育大学釧路校は今よりも定員が多かった中で、公立で大学を作ってどのようになるのだと、あまり肯定的な意見はありませんでした。

しかし、私が感謝するといったものは、先程、人口の資料を見ていただきました。釧路公立大学には、18歳から本来22歳なのですが、留年している学生もいることから24歳までが、1,400人おります。その中の15%は釧路市や管内から、残った85%は釧路以外から来ております。今、釧路公立大学があるから、その人口がいる訳で、大学がなければ、本当にどのような状況であったのだろうと思います。

その時、その時という部分がありますが、この街の中のことを見て、価値を

守り、歴史的なことを踏まえていきながら、お金が儲かることは確かにありがたいから、行きたくなる気持ちもあるけれど、今までの価値観を守っていくことを進めていくことが、私は重要なことだと考えており、ぜひ、そのような観点の中で、一つ一つの施策を活用したいと考えております。

日本の中でIRというものを初めて導入する時に、そこに対して、今までの私たちの持っている強さを生かせるように活用できないかと思っており、壊すために導入するという気は全くない訳です。そのように活用できないかということを考え、プランを作りながら進めているということですので、ぜひ、この気持ちだけをご理解をいただければありがたいと思っております。

### 【参加者D】

2つお尋ねしたいと思えます。1つ目は、音別というこの地域を、釧路市の中で、また、釧路市役所の中で、もっと向上させていかなければいけないと思っているところです。合併いたしまして、もう間もなく満12年目を迎える訳でありますけれど、市長の頭の中には、音別のことについての意識はたぶん高いと思えますが、市議会議員の皆さんには、選挙間近でないと、なかなかこの音別に現れないという状況です。議会報告会は別ですけれども、議員の方の姿を見たことがあまりありません。人口も徐々に減少していくという寂しいニュースばかりが、はびこっております。

そこで、今日の市政懇談会も大変有意義でありますけれども、開催回数は1回ということなので、ぜひ、2回、3回と開催していただければ良いと思っております。市長は大変お忙しい身ですので、場合によっては副市長の登場でも構いませんけれども、できればこのような開催の回数を1プラスまたは2プラスできるかどうかについて、お伺いしたいと思います。

2つ目は、元の行政センター跡地利用についてです。現在はベニヤ板で閉ざされており、大変寂しい形になっております。あの建物は、音別住民のシンボルのような所であり、どのようになるかと住民の皆さんは関心を持っていると思えます。私も出席しております地域協議会でもお話がありましたが、まだ、結論が出ていない状況です。おそらく、行政センターの方で、いろいろと考えていらっしゃるの、今日は、途中経過でも結構ですのでお聞かせください。

もし、行政センターを解体して新規に作るとなれば、おそらく億の費用がかかるのではないかと思います。法律はわかりませんが、耐震補強をして再利用ができないかどうか、その辺を教えてください。もし、できるのであれば耐震補強した方が、5千万円たらずでできるのかと簡単に考えられます。解体して、新規に建物を作る場合は、ぜひ住民の皆さんが、気楽に使えるようなものにしていただきたいのと、音別の老人の方は、夏はパークゴルフで大変活動的ではありますが、冬になりますと閉じこもりが多いことから、冬でも使えるような内容のことを十分にお考えいただきたいと思えます。

これも、焦ってやるべきものではありませんので、これからいろいろな場面

で、そのような協議会が開かれると思いますけれども、まず市の方から、何か提案を1つ、2つ出していただいで、みんなが満足して利用できるようなものになるよう、私は期待しております。途中経過で、構いませんが、お聞かせいただきたいと思います。

### 【市長】

ぜひとも、いろいろとお話する機会ができればと思います。いろいろと話をしていくと、どのように進めていこうかということ等が出てきたりしますので、このような形以外で機会があれば話をしたいと思います。早め早めに、このぐらいの予定で行うと連絡をいただければ、時間も取れますし、今度、8月1日の行政センター屋上でのイベントに来る予定をしておりますし、いろいろな場面の中で、言っていただければ調整して来るようにしたいと思っておりますので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思っております。

行政センター跡地の話がありましたが、このように考えてもらえればありがたいと思います。耐震整備で音別の行政センターができました。もう1つ、耐震工事を行ったものは、阿寒の行政センターです。あの時に思いました。やはり、音別はしっかりと建てて、これから50年先までといった形のものができるといった時に、阿寒の行政センターは、その前々からの流れの中で、耐震工事で行いました。私は、耐震工事というものは、実は、当たり前のように考えていたのですが、もしかしたら、議論の先送りだったという思いもしております。

そのようなことを踏まえた時に、本当にどのような形にするのかということ、いろいろな仕組みを活用しながら、進めていけることを模索していかなければいけないと考えています。ただ、自分たちの思いどおりにやるとなれば費用がかかってきますから、なかなか大変なことです。

例えば、市役所の防災庁舎については、さまざまなスピードがあったことと、巡りあわせが良かったことで、極めて負担が少なくできたものです。庁舎を作る時というものは、基本的には補助金等は入らないのです。今は、起債を認めている5年間というものがありますけれど、基本的には、ないという状況でした。釧路は東日本大震災の時に、目の前まで津波が来た。そこで、市民の安全を守っていこうと防災庁舎を企画し、あの時全国の中で、1番最初にプランニングを作ったことから、当該補助金については、全国の中で1番多く釧路市に配分され、8億円程度と記憶しているところです。あとは、借金を使いながら進めて、34～35億円の建物なのですが、大体12～13億円の3分の1ぐらいを市が負担してやっていこうということで、プランニングしました。その時に、安倍政権が誕生し、アベノミクスということで、この時に非常にプラスであったのが、投資したお金、つまり建物等に投資したお金が、丸々もう1回かえってくるという制度を、あの時に出してくれたことから、10億円が丸々かえってきました。

これらから、34～35億円の建物を、実質、3億円で建てているのです。私たちの財政については、皆さんの税金でありますから、このようなことを

やりたいから、そこのところにくらでもやっていきたいと思いますということではなく、そのようないろいろな制度、もしくはそのようなものを活用しながら、いかに負担を少なくし、そして良いものをしっかり作っていくかを常に考えておりますので、ぜひとも、このような部分も、頭に入れていながら、進めていければと考えております。

今、これをやらなくてはいけないという場合には、自分で金を出せばできます。しかし、我々が使っているものは、すべて税金でありますから、より効率的に、より効果的に、あわせていろいろなところから、お金を持ってくるということを考えながら、進めていくということが重要になると考えています。

### 【音別町行政センター長】

8月1日のイベントのことを若干お知らせしたいと思います。あらためて、ご案内申し上げますと、行政センターの屋上は、防災上の避難場所になっておりますが、皆さんあまりご存知ないということで、そこを知っていただくということを込めまして、名称は正式に決まっておりますが「ビール祭り」みたいなものを屋上にて行いたいと思っております。これをきっかけに、防災庁舎に避難をすることを、身をもって体験していただくということです。ここに逃げ込めば、最大級の津波が来ても助かるという場所ということも認識をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

その場に市長も来ます。市長との懇談もその場でできると思いますので、ぜひ、お出てください。

行政センター跡地利用の経過ということですが、地域協議会等で話していることは、ある程度ご存知だと思いますけれど、現状といたしましては、一旦、皆様方に、跡地をどのような形で利用する、どのようなものを望むかということ、一度聴かせていただく機会を設けまして、その中で、例えば多世代の交流施設や、地域カフェ、特産品販売、それからフキ紙の施設である等の回答をいただいております。そのようなものを、こちらの方で受け取りまして、どのような形で跡地を活用していくかというようなことを考えて、地域協議会にお諮りしているところですが、先程、市長の方からもお話がありましたように、とにかくお金がかかることですので、いろいろな制度を活用します。

今、その活用方法を模索し、一番有利な形で施設を建てるなり、整備をすることを考えているところです。耐震整備をしての再利用ができないかというお話がありましたが、2階建ての施設としては、耐震診断としてはダメな状況であります。それから、コンクリート等の劣化等も始まっておりますので、再利用は難しいという状況であります。

例えば、耐震整備ということになりますと、2階を撤去し1階を再利用するという方法があるのですが、これも費用としては、新築するものとあまり変わらないのではないかとということや、コンクリートの劣化等も始まっておりますので、やはり、今の建物は、取り壊さざるを得ないのかと思っております。

取り壊して更地にするだけですと、国の補助金が難しいということで、計画がある程度固まった時点で、具体的なお話をさせていただきたいと思っております。

ます。

**【市長】**

今日は本当にありがとうございました。お疲れのところ、このように懇談会の方にご出席を賜りましたことを、心から感謝を申し上げたいと思っております。

先程、お話がありましたとおり、皆さんといろいろな話をしながら進めていければと思います。日頃から、センター長も含め、いろいろとお話しているかと思いますが、そのような中に、私も来ながら一緒に進めていきたいと考えておりますので、ぜひ、よろしく願いいたします。